



いきいきと蘇った街並み。 マ「いだてん」も撮影はじまる。

江

戸時代の街並みを再現したロケ施設「ワーブステーション江戸」

に、新たに近現代をイメージしたロケのセットが完成した。これまで主にNHK大河ドラマや時代劇の撮影を中心に使われてきた同施設。今回の拡張整備により、新たに明治から大正、昭和の時代を舞台にした作品の撮影に対応できるようになる。6月7日には関係者が出席する中、完成式典が行われた。

新セットは、撮影が終われば撤去する仮設の「撮影セット」ではなく、重厚な鉄骨造りの建築物による街並みが形成されているのが特長だ。

ワーブステーション江戸の山中一郎所長によると、今回、明治、大正、昭和にかけての建築物や街並みを再現するにあたって「現存する当時の資料に基づき、研究を重ねた」という。実在した建築物のさまざまな特徴を加味しながら建物のデザインを仕上げていき、「同じ建物でも、ある時は銀行であったり、あるときは警察署であったり、さまざまな撮影に対応できるように工夫した」と話す。

取材したこの日は、来年放送開始のNHK大河ドラマ「いだ